巻頭特集 ラジオ番組企画からパーソナリティーまで

# 地域の情報を、滋賀大学の学生が発信！

今年6月、彦根市のラジオ放送局「エフエムひこねコミュニティ放送」で、滋賀大学の学生たちによる4番組が放送された。地域のニーズを考えながら、独自の番組をつくり上げた学生たちを取材した。

## 学生らしさを大切に 一から始める番組づくり

ラジオに関わったのは「働き方探究プロジェクト　放送業界で学ぶ」を受講した1年生2人、2年生9人、3年生3人、4年生4人の18人。この講義は、社会で生きていく力を養うために、今年4月から新しく開講された授業科目だ。滋賀大学経済学部特任准教授の柴田雅美先生のほか、エフエムひこね代表取締役の小幡善彦社長も教壇に立ち、全国で放送されるラジオとコミュニティーラジオの役割を伝えた。

座学が終わると、4つのグループに分かれ、自分たちのラジオ番組を企画する。どんな番組にするかは、完全に学生たちの手に委ねられた。初めての取り組みに四苦八苦する学生たちに、柴田先生や小幡社長は「できる限り地域の情報を流し、内容のある番組ができると良い」とアドバイス。リスナーの関心を引き、自分たちも楽しめる番組構成を話し合った。情報を集め、与えられた15分で話す内容を取捨選択。本番へ向かう姿勢は、原稿を煮詰め、リハーサルを重ねたグループも、大学生らしさを出すために、あえて余白を残した原稿で挑んだグループもあったが、精一杯リスナーに向けて声を届けた。

初めて挑んだラジオ放送、なかなかプロのようにはいかない。1回目の放送を聞いた時、うまく話せず恥ずかしさを覚えた学生も多かった。しかし、回を重ねるごとに慣れていき、放送の後にグループを超えて意見を出し合うことで徐々に良くなっていった。小幡社長も「レベルアップしているのを感じました」と太鼓判を押す。「良かったよ」とまわりから声をかけられることも増えたそうだ。

## 実践から社会で生きるヒントを 学生たちが学んだこと

5回分の番組を無事に放送し、7月末で講義はすべてのプログラムを終えた。放送業界を志す人にとって、座学ではなく、実践していく講義は、貴重な機会だ。2年生の吉田航（わたる）さんもその一人。将来の夢を具体的に想像できるようになり、放送業界へ進みたいとより一層思うようになったそうだ。もちろん、違う職業を目指す学生にとっても、アウトプットの機会を得られたと好評だった。

「滋賀大やねん」を制作した4年生の中川原大樹（だいき）さんは「伝えることの難しさがわかった」と話す。受講生全員が実感したが、「さんさんラジオ」のグループにいた4年生の酒井瞳さんは、リズムを意識して話すようにしてきたという。

取材の中で、改めて気付いたことも多かった。「ボイス・フロム・ザ・ワールド」を手がけた中国からの留学生、尹永銘（ぃんえいめい）さんは、他の留学生から話を聞く中で「学び始めた時に感じた日本語のおもしろさ」を思い出したという。3年生の大坪宏理（おおつぼひろたか）さんも「ゴールデン・デイズ・フロム滋賀大」の取材で、久しぶりに多賀大社を訪れ、地元の魅力に触れられた。「初めて食べた糸切餅がとてもおいしかった」と目を輝かせた。

ラジオ番組の制作を通じて、社会を知る。人とともに生き、人と力を合わせて物事を進めていく経験は、確実に学生の力となっているだろう。さらに、地元やラジオの魅力についても知ることができた。手応えを掴んだ柴田先生は、今後もこの講義を続けていきたいと話した。

## 学生たちによるラジオ番組 エフエムひこねから発信

FMラジオの周波数を78・2に合わせる。スピーカーから流れるのは、彦根市を中心に6万世帯に届くコミュニティーラジオ「エフエムひこねコミュニティ放送」。彦根の交通・気象情報をはじめ、地元のニュースや学校給食についてなど、地域に密着した情報が流れてくる。

今年6月25日、エフエム彦根で新たな番組がスタートした。1日2回、15分枠で放送されたのは、滋賀大学の留学生にインタビューして、彦根や日本文化の良いところ、自国の文化と違うところを伝える「ボイス・フロム・ザ・ワールド」、サークル活動など滋賀大学での学生生活をリスナーに伝える「滋賀大やねん」、老若男女を問わず、楽しく週末を過ごすための情報を学生目線で発信する「ゴールデン・デイズ・フロム滋賀大」、童謡や絵本の朗読、おすすめのお出かけスポット紹介など、小さな子どもをもつ人をターゲットにした「さんさんラジオ」の4タイトル。タイトルや内容からも見て取れるように、滋賀大学の学生が企画からパーソナリティーまで自ら行い、つくりあげたものだ。

1. 中川原大樹さんと酒井瞳さん
2. 「Voice from the world」（ボイス・フロム・ザ・ワールド）の収録風景
3. 講座では小幡さんも特別講師として教鞭をとり、現場の声を学生たちに伝えた
4. ビルの２階にエフエムひこねのスタジオがある
5. 「滋賀大やねん」のプロジェクト会議の様子。皆が意見を出し合って、より良い番組をめざす
6. 滋賀大学講堂
7. 柴田雅美先生（左）と小幡善彦さん（右）

滋賀大学のマスコットキャラクター「カモンちゃん」(c) 滋賀大学